

先端測量技術111号の発刊と未来によせて

公益財団法人 日本測量調査技術協会 技術委員長 赤松 幸生



このたび、先端測量技術（旧APA）が、通算で111号となる記念すべき発刊を迎えました。活動内容の広報媒体として重用してきた技術委員会としましても、大変喜ばしく、また、感慨深く思っているところです。これまで投稿等で本機関誌を支えて頂いた会員の皆様、企画・編集・発刊にご尽力頂いた歴代の編集委員会・事務局の皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。

旧APAは2004年12月のNo.88まで続き、2006年1月発刊のNo.89/90の合併号から先端測量技術にリニューアルされました。誌面サイズを大型にして、カラー画像や図表などビジュアル媒体を多用することで、より時代に即したわかりやすい情報伝達に努めてきました。また、HPに高画質なpdf形式での紙面掲載を開始し、紙媒体が届かない方へのサービス向上にも取り組んできました。内容的にも、技術発表会の特別講演や発表論文、部会およびWG活動の報告、受託研究成果の報告など、技術委員会の活動に係る記事を中心に掲載してきました。これらの取り組みを通して、技術委員会の活動内容を、より多くの方々にわかりやすくお届けすることが可能になってきたと感じています。

一方で、かつては年3回であった発行が1回になり、タイムリーな情報発信が難しくなる場面も生じました。また、ビジュアル面は充実しましたが、発行回数減少の影響もあって、企画特集、訪問インタビューなどの記事が少なくなり、内容がやや単調になった面もありました。コミュニケーションスタイルが急速かつ大幅に進化する現代においては、測技協の活動をどう社会に伝達し認知して頂くのか、不断の検討と改良が求められると考えています。技術委員会の活動についても同様で、測量技術サービスへの社会ニーズが日毎に高度化する中、タイムリーに最適な形のサービスを提供する仕組みを、業界の技術の総力をあげて工夫し、創造し続けていかなければなりません。

間もなく平成から新たな年号への移行を迎える今、技術委員会も公益法人・社会の公器としての立場を改めて認識し、時代を切り拓く新たな測量技術やサービスの創造、社会への提供・普及等に邁進していきたいと思えます。幸いなことに、本年度から先端測量技術の発行は年2回に増えました。測技協、ならびに技術委員会の重要なコミュニケーションツールである本機関誌の末永き継続に加え、さらなる充実と発展を願い、111号発刊へのお祝いの言葉とさせていただきます。